

モモせん孔細菌病の多発条件下での秋期防除対策

福島県農業総合センター果樹研究所 病害虫科

1 部門名

果樹－モモ－病害虫防除

2 担当者

柳沼久美子・七海隆之

3 要旨

モモせん孔細菌病多発園地で、無機銅剤による秋期防除の散布時期、回数を変えても翌年の春型枝病斑の発生に差がみられず、効果が十分でないことが多い。多発条件下でのせん孔細菌病の防除対策は、菌密度を下げるため、春型枝病斑のせん除を中心とした総合的防除を実施する。

(1) 2014 年 9 月に発病葉率が 48%以上あった(データ省略)福島市および伊達市の現地モモ4園地で、防除回数を1～2回増やした秋期防除を実施した(表1)。薬剤は全て無機銅剤とした。

(2) 2015 年 4～5 月、翌年春型枝病斑の発生状況は試験体系で 0.1～0.8%、慣行体系で 0.1～0.9%であった(表2)。各試験体系と慣行体系の発生量に差はみられなかった。

(3) 今回の試験では、秋期防除の散布時期や回数の違いによる防除効果の差はみられなかった。これはほ場内の菌密度が高く、薬剤散布の効果が得られにくいことが原因であると思われる。したがって、このような発生状況下では、せん孔細菌病の防除対策は春型枝病斑のせん除を中心とした総合的防除を実施する。

表1 秋期防除試験体系の構成

	散布実施の有無				
	8/25頃	9/10頃	9/25頃	10/10頃	10/25頃
試験体系①	○	○	○	○	—
試験体系②	—	○	○	○	○
試験体系③	○	○	○	○	○
慣行体系	—	○	○	○	—

○: 散布実施、—: 無処理
※防除日はほ場により異なる

表2 春型枝病斑の発生状況

	発病枝率(%)	
	試験区	慣行区
試験体系①	0.8	0.7
試験体系②	0.3～0.6	0.2～0.9
試験体系③	0.1～0.8	0.2～0.5

※慣行区は同一ほ場の慣行体系での発病枝率

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 26 年度～27 年度
- (2) 研究課題名 モモせん孔細菌病の防除法改善試験
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料